

【スクール・ミッション】

「豊かな人間性を養い、主体的に考え、創造性に富んだ個性の伸長。日本の文化・伝統を理解し、尊重する態度を養うとともに、異なる国、民族、文化を理解し、尊敬し、共に生きる姿勢の育成。心身を鍛え、積極的に国際社会で行動する意欲をもった人材の育成」を教育目標とし、豊かな国際感覚と優れた外国語能力を生かして国際社会に貢献できる人材を育成します。

【スクール・ポリシー】

●グラデュエーション・ポリシー

国際学科の学校として、また国際バカロレア (IB) ワールドスクールとして、多様な進路希望の実現を目指して「IB の学習者像 (10 の学習者像)」を踏まえた資質・能力を育成します。

- 1 調和のとれた国際感覚と豊かな人間性を備えた創造性に富んだ個性
- 2 多様な文化の理解と尊重の精神を通じてよりよい社会を創るために協働する力
- 3 探究心をもって論理的・分析的に考える力と課題解決に向けて主体的に行動する意欲
- 4 優れた外国語能力をツールとして多様な人々と積極的にコミュニケーションできる力

●カリキュラム・ポリシー

国際学科及び IB ワールドスクールとしての特色を生かし、多様なバックグラウンドを有する生徒の育成に資する教育課程を編成し、実施します。

- 1 学習指導の充実：基礎・基本の定着を図るとともに、探究型、課題解決型の授業や教科横断的な取組を通して主体的・対話的で深い学びを実現します。多様な進路選択に応じて、普通教科での学びを専門教科において深化させることにより、学力向上を図ります。
- 2 外国語コミュニケーション能力の伸長：4 技能を統合した外国語による授業実践や英語力の評価、学校行事等の多様な機会を活用しながら、国際社会で活躍できる人材に求められる高い外国語コミュニケーション能力を育成します。
- 3 キャリア教育の推進：キャリアガイダンスや「人間と社会」、課題研究等を通して、社会の一員として他者と協力・協働する力や、自ら主体的に判断してキャリアを形成する力、様々な価値観に対する考えを深めて行動する力、自ら学ぶ意欲、社会貢献への意識を高め、生涯学習の基礎を培います。
- 4 国際理解教育の推進：国際理解科目を中心として、外部機関との連携強化や、海外姉妹校等との継続的交流や留学生の派遣・受入れの推進、海外大学進学支援、学校行事を通じた異文化理解の深化等により、国際理解教育の推進を図ります。
- 5 生徒の主体的・自律的活動の推進：ホームルーム活動や生徒会活動、学校行事、部活動等の特別活動において、生徒の自律的な行動を促すことにより、主体的に課題を解決していく能力・態度や、規範意識、社会で必要なマナー等を身に付ける指導を行います。

●アドミッション・ポリシー

本校は、国際学科の学校として、また IB ワールドスクールとして、世界の人々から信頼され、尊敬される人材の育成を目指して、豊かな国際感覚を磨く国際理解科目と、高度な外国語運用能力を身に付ける外国語の授業を特徴とする学校です。

- 1 国際学科を志望する目的意識が明確である生徒
- 2 国際学科に関する興味・関心を持ち、すすんで学習する意欲を有する生徒
- 3 協調性に富み、豊かな人間性を有する生徒
- 4 学校内外の活動に自主的・積極的に取り組んでいる生徒
- 5 学習成績が良好であり、特に外国語の成績が優れている生徒

〔国際バカロレアコース〕

本コースは、一部の科目を除いて英語で学び、国際的に認められる大学進学資格を取得して海外大学進学を目指すコースです。国際社会の様々な場面において英語で諸外国の人々と議論し、リーダーとして活躍できる生徒の育成を目指しています。

- 1 国際バカロレアコースを志望する明確な目標を有し、国際社会への貢献を念頭に置いて、海外大学進学に挑戦する強い意志がある生徒
- 2 国際バカロレアコースでの学びに対して、自らすすんで学ぶ意欲と探究心を有し、困難な課題にも勇気をもって取り組む生徒
- 3 協調性や相手を思いやる心を持ち、他者との意見や考えの違いを積極的に理解しようとするなど、豊かな人間性を有する生徒
- 4 幅広い視野を身に付けようとする意識や心身を鍛えようとする意欲を持ち、学校内外の活動に自主的・積極的に取り組んでいる生徒
- 5 全ての教科の学習成績が良好で、英検 2 級から準 1 級程度に相当する英語の力を有する生徒

Ⅰ 学 習 指 導	中期的目標と方策	
	1 授業改善：教科マネジメントを充実させ、組織的・計画的に主体的・対話的で深い学びを実現する授業を実践する。 2 指導力向上：ルーブリックに基づく適切な指導と評価の改善を図り、生徒の習熟の程度や学習状況に応じた指導を行う。 3 社会生活におけるDX化に対応した教育の推進：東京都教育施策大綱（R7.3.）、東京都教育ビジョン（第5次）（R6.3.）及び「都立高校の魅力向上に向けた実行プログラム＜令和6年更新版＞」等に基づくICT、BYOD、AIの積極的な活用を図る。 4 10の学習者像の実現（IBワールド・スクールとしての取組）：学習指導を中心とする教育活動において10の学習者像を明示し、その実現を目指した指導を行う。 5 国際学科としての特色化：国際理解科目、外国語科目及び課題研究の到達目標を明確化し、指導内容の改善・充実を図る。	
	今年度の取組目標と具体的方策	関連する数値目標
	① 基礎基本の定着を図ると共に、学習内容に応じて10の学習者像を指導計画に位置付け、探究型、双方向型、課題解決型の教育手法やIBの構成主義的アプローチ、インクルーシブ教育の理念を取り入れた授業を実践する。 ② 本校のランドデザインのルーブリックに基づき、各教科科目別ルーブリックを作成し、観点別評価に基づく指導と評価の一体化を図る。 ③ 「わかる授業」「主体的・対話的で深い学び」を合言葉に、毎時間の授業では授業の始めに「本時のねらい」を明示し、授業の終わりに「本時の振り返り」を行う。ICT等の視聴覚教材を積極的に活用し、生徒一人1台端末の利活用を積極的に図る。AIを活用した英語教育の充実にも挑戦する。 ④ 相互授業参観や校内研修・教科会等において、オンライン/オンデマンド学習を含めた指導方法や評価、IB的手法等について研究・研修を行い、組織的・計画的に教科指導力を向上させる。課題の量の適正化と見える化を図る。 ⑤ 年間授業計画に学習到達目標を明記するとともに評価計画を提示し、指導成果の検証を踏まえ、指導内容を改善する。 ⑥ 創立以来変わらぬ「国際理解科目」の成果と課題を整理し、グローバル化が加速する現状を踏まえ、科目の精査と改善、新企画立案等を図る。 ⑦ 課題研究において、「【TIPS-Type 4】探究的な学び推進事業」の下、仮設検証型の論文作成や外部人材活用等、指導内容・運営方法の改善を図る。 ⑧ 図書館の開館時間を最大限確保し、生徒の自主学習の時間と場所を保障する。	○生徒による授業評価で「内容を理解している」80%以上、「授業内容に満足している」90%以上 ○「1、2年生の家庭学習時間平均平日2時間以上」70%以上 主な推進所管・担当 各教科、各学年、教務部、国際理解科、総務部、図書室、

Ⅱ 進 路 指 導	中期的目標と方策	
	1 主体的な進路活動の促進： 3年間を見通した進路活動計画の下、適時適切な情報提供やデータ分析結果のフィードバック等を行うことにより、生徒の主体的で適切な進路選択に向けた指導を推進する。 2 組織的な進路指導体制の確立： 進路指導部・学年・教科が連携し、多様な背景と進路希望を有する生徒に応じた適切な指導を組織的に行うことにより、進路希望の実現を図る。 3 進学指導の改善・充実（進学指導特別推進校としての取組）： 進学指導訪問・研究授業等の機会やデータ分析結果を活用して、各教科における学習指導を改善することにより、進学実績の向上を図る。	
	今年度の取組目標と具体的方策	関連する数値目標
	① 生徒のニーズや大学入試、高大接続教育等に応じたキャリアガイダンス、進路説明会等を実施し、3年間を見通した組織的・計画的な進路指導体制を構築する。 ② 進学実績データの整理・分析や、1、2学年の模試分析会の実施を通して、進路指導部・学年・教科が連携し、組織的な進学指導を強化する。 ③ 模試分析会では、業者による分析に加え、5教科による模試分析の結果報告を行い、授業及び生徒の進路指導へ反映させる。 ④ ポートフォリオや模試分析システムを活用し、生徒保護者のニーズに応じた面接指導を実施する。全学年原則年1回全員、三者（担任・生徒・保護者）面談を行う。 ⑤ 進路指導部・学年・教科が連携し、総合型・学校推薦型選抜、一般選抜に対応する講習等の進学指導を組織的・計画的に実施する。 ⑥ IBコースの進路活動と連携し、組織的な海外大学進学指導体制を強化する。 ⑦ 多様な背景を有する生徒の進路指導に係る個別指導、日本語学習支援、面談等を強化する。	○「進路指導が充実している」80%以上 ○「模試の振り返り等効果的な活用をしている」80%以上 ○難関国立大学、国公立大学及び早慶上智ICU現役合格130名以上 ○海外大学現役合格80名以上 主な推進所管・担当 進路指導部、各学年、各教科

Ⅲ 生活指導	中期的目標と方策	
	1 基本的な生活習慣及び授業規律の徹底：挨拶や身だしなみ等の基本的な生活習慣やマナーを身に付け、時間厳守やチャイム着席を始めとする授業規律や登下校や制服着用等のルールを遵守する等、規範意識の向上を図る。 2 いじめのない学校づくり：生命の大切さや人権尊重についての指導を通して、いじめの未然防止に努めるとともに、組織的に早期発見・早期対応できる体制を維持する。 3 事件・事故防止の徹底：長期休業中の事件・事故や、登下校時や部活動中の事故防止に向けた指導を、組織的・計画的に実施する。 4 環境意識の向上と校内美化の強化：様々な教育活動を通して環境への意識を高めるとともに、清掃美化活動を強化し、快適な学習環境を整備する。	
	今年度の取組目標と具体的方策	関連する数値目標
	① 校内では、教員が積極的に声掛け等を通して、生徒に挨拶の励行を奨励する。また、衣替え期間廃止に伴う制服着用やTP0に応じた身だしなみ、マナー、授業規律等については、ホームルーム・集会・授業等の機会に触れることにより、生徒の自律的な行動を促す指導を行う。 ② 登下校のルールや時間厳守を徹底させるため、生徒指導部と学年が連携し、登校指導・遅刻指導を計画的に行う。 ③ いじめや生命に関わる事故を未然に防ぐため、SNSルールの周知徹底や生命に係る講話の実施、特別支援コーディネーターとスクールカウンセラーの連携強化を図るとともに、人権尊重教育を継続的に推進する。 ④ 盗難防止月間の取組やセーフティ教室、薬物乱用防止教室、長期休業前の生活指導を確実にし、事件・事故の未然防止に努める。 ⑤ 教科学習や特別活動を通して環境問題への意識を向上させるとともに、基本的な感染症対策の継続と校内美化清掃を強化する。 ⑥ 行事・委員会・部活動を含め、生活指導全般の取組において、生徒指導部内及び生徒指導部・学年が連携し、組織的な生活指導体制を構築する。	○いじめ件数ゼロ ○盗難発生ゼロ ○1日当たりクラス平均遅刻人数 1名以下 ○学校評価アンケート「校内の清掃美化活動をきちんと行っていると思う」75%以上 主な推進所管・担当 生徒指導部、各学年

Ⅳ 特別活動・部活動・健康づくり	中期的目標と方策	
	1 学校行事の改善・充実： 体育祭や文化祭、修学旅行、ESCA、スピーチコンテスト等の多様な学校行事を通して、平素の学習活動の成果を活かすとともに、自主的・主体的な実践力や協働する力等を高め、規律ある学校生活を充実させる。 2 部活動の振興： 生徒の自主的、自発的な参加によりスポーツや文化等に親しむ活動として、地域行事への貢献等、地域との連携を図りながら、部活動の振興を図る。 3 儀式的行事の適正な実施： 学校生活に有意義な変化や折り返しを付け、新しい生活に向けた希望・意欲を新たにしながら厳粛な中で規律ある態度で臨むなど、儀式的意義を踏まえた指導を適切に行い、儀式的行事を適正に実施する。 4 体力向上・健康づくりの取組： 「TOKYO ACTIVE PLAN for students」(令和4年3月策定)等を参考とした生徒の体力向上に関する取組を行う。体育の授業や体育的行事、部活動を通して、運動意欲や体力、基礎的な運動能力、競技力の向上を図るとともに、安全管理や食育、メンタルヘルスに配慮した、心身の健康づくりを推進する。	
	今年度の取組目標と具体的方策	関連する数値目標
	① コロナ後の学校行事や部活動等の特別活動の新たな企画運営方法等の工夫と生徒の実態に即した主体的な活動を促し、国際高校独自の教育活動の充実と活動成果の向上を図る。 ② 部活動中の事故を防止するため、「部活動に関する活動指針」に基づく指導を強化するとともに、各部活動において事故防止対策を継続して徹底する。 ③ 部活動指導者や部員同士の協働・協力を重視し、競技成績や発表会等の成果、参加者の満足度を向上させる。 ④ 保健体育科の授業や体育的行事、部活動等において、指導目標に即した教育活動を行うことにより、体力向上及び心身の健康維持・増進を図る。 ⑤ 基本的な感染症対策を講じるとともに、特別活動等のさらなる充実を図る。	○「2大行事の満足度」90%以上 ○都大会入賞レベル以上の成績 2部活動以上 ○体力テストの全項目で東京都の平均以上 主な推進所管・担当 生徒指導部、各学年、保健体育科、各部活動顧問

V 教育課題	中期的目標と方策	
	1 Global Education Network School Premier 20 としての取組の推進： 指定校事業として姉妹校等との国際交流や、英語力向上の取組を推進することにより、豊かな国際感覚の涵養と外国語能力の一層の向上を図る。 2 防災教育の推進： 地域と連携した防災訓練・避難訓練・防災講話の実施や、保健授業における「災害の発生と安全・健康」に係る指導を通して、自助・共助・公助を踏まえた防災教育を推進する。 3 多様なニーズへの対応： 在京外国人生徒を始めとする特別な支援が必要な生徒への学習指導・生活指導・進路指導における支援態勢の充実を図る。 4 地域貢献の推進： 教育内容の地域発信、近隣小中学校との教育交流、学校開放事業等を通して、地域連携を重視した地域貢献を推進する。	
	今年度の取組目標と具体的方策	関連する数値目標
	① コロナ後の国際交流の完全復活を経て、プログラム内容の更なる充実と新企画の提案、姉妹校等の学校交流・生徒交流を計画的・組織的にを行い、その成果を検証する。 ② 英語コミュニケーション能力を向上させるため、第1学年でのオンライン英会話やカンブリッジ英検、TOEIC IP・英検等を活用し、成果検証・分析を踏まえ改善を行う。 ③ 広域避難場所としての役割を果たせるよう、地域や外部機関と連携した実践的な防災訓練及び避難訓練を実施する。 ⑤ ICT (SNS) を活用し、災害時等の情報発信を迅速かつ確実に行う。 ⑥ 在京外国人生徒等に係る課題を整理し、関係部署・担当者が連携して、必要に応じた学習支援（日本語指導）及び進路指導を行う。 ⑥ 公開講座（こどもファミリーング・体操教室）の実施、及びグラント・テニートの学校開放事業を計画どおり実施する。	○姉妹校等との学校交流・生徒交流3回以上 主な推進所管・担当 国際部、外国語科、保健体育科、防災教育推進委員会、生徒指導部、各学年、国語科（日本語科）、社会科、教務部、経営企画室

VI 国際バカロレア	中期的目標と方策	
	1 ディプロマ・プログラム（DP）の充実及び指導力向上： カリキュラム・マネジメントに基づくフル・ディプロマ取得に向けたDPの確実な実施と、研修及び授業研究に基づく指導力向上と指導の充実を図る。 2 海外大学進路希望の実現： 各種進路活動及びカウンセリングを通して、生徒の主體的な進路選択の促進と生徒のニーズに対応した適切な海外大学進学指導を充実させることにより、進路希望の実現を図る。 3 IB ワールドスクールとしての使命： IB ワールドスクールの公立高校のパイオニアとして、授業公開や視察訪問受入れ、研修会の実施等を通じて、IB 教育の普及啓発に向けた取組を推進する。	
	今年度の取組目標と具体的方策	関連する数値目標
	① DP の確実な実施に向けた課題解決と指導力向上を図るため、組織的・計画的に教科会や校内研修、IBO 主催研修、授業研究の実施及び授業実践集の発行等に取り組む。 ② カリキュラム・マネジメントを徹底し、DP 実施スケジュールに係る教育課程の改善に向けた検討を行う。授業における知識の集積から概念理解へのシフトを図る。 ③ 年間進路活動計画に基づき、生徒の進路希望に応じた情報提供やカウンセリング、面談等の支援を充実させるとともに、データ分析を生かした進路指導を強化する。試験問題の紙からデジタル化へのシフトに備える。 ④ 海外大学進学における諸課題（奨学金及び海外情勢）についての情報収集及び支援体制を強化する。 ⑤ IB 入選の資格確認、令和7年度以降のIB入試日程及びIB定数増などについて、東京都教育委員会との協議を継続していく。 ⑥ 令和7（2025）年度秋に予定されているIBスクール再認定に向け、資料作成及び東京都教育委員会との打ち合わせ等入念な準備を行う。 ⑦ レギュラーコースへのIB教育普及への具体的な方策を検討する。	○フル・ディプロマ取得率100% ○進路決定率90%以上 ○IBOによる本校IB校としての再認定取得 主な推進所管・担当 IB部

Ⅶ 募集・広報活動	中期的目標と方策	
	1 広報媒体の積極的な活用：ホームページ等の広報媒体を積極的に活用し、本校の特徴や取組、特色ある教育活動、生徒の活躍等の効果的な広報を推進する。 2 学校説明会等への組織的取組の推進：学校内外で行われる学校説明会・学校見学会に組織的・戦略的に取り組むことにより、参加者のニーズに応える内容及び運営の充実を図る。 3 ニーズに応じた広報戦略の実施：中学生の志望傾向の分析等を通して、新国際高等学校（仮称）との差別化・差別化を意識した広報戦略を策定・実施する。 4 入学者選抜の適正な実施：事前相談や資格確認、問題作成業務を含め、4月生募集・9月生募集において、推薦、学力、海外帰国生徒、在京外国人生徒等、IB コースの各入学者選抜を適正に実施する。	
	今年度の取組目標と具体的方策	関連する数値目標
	① 本校の取組を広く周知するため、ホームページの更新、X（旧 Twitter）の活用、「学校案内」等の情報発信ツールを積極的に活用する。 ② 都の事業である令和7年度「都立高校EXPO」に参加するなど、学校内外での学校説明会等に積極的に参加する。 ③ 塾関係者対象の学校見学会を実施するなど、広報活動を一層拡大する。 ④ 推薦・学力入選の倍率復活を期し、本校の良さを十二分に伝えるために、生徒主体での学校見学会を企画するなど、広報展開のシフトを図る。 ⑤ 帰国・在京入選の事前相談や資格確認は、東京都教育委員会の協力の下に取り組むとともに、本校の多様な入学者選抜に関係する様々な課題については、東京都教育委員会と協議相談しながら進める。志願者のニーズや受検者のデータ集積・分析を行い、募集対策や入学後の指導に役立てる。 ⑥ 学校正門横道路沿い掲示板の有効活用を検討する。 ⑦ PTA 各委員会との連携を活かし、学校説明会等の広報活動の充実を図る。	○HP 更新回数年 170 回以上 ○学校施設見学会・学校説明会参加者数 4,000 人以上 ○入選一次募集倍率 2.5 以上
		主な推進所管・担当
		総務部、教務部、国際部、IB 部

Ⅷ 学校経営・組織体制	中期的目標と方策	
	1 カリキュラム・マネジメントの徹底：：グラントデザインに基づき特色ある教育課程を編成・実施するために、カリキュラム・マネジメント及びPDCA サイクルを徹底し、学習指導、進路指導、生活指導、特別活動等の教育活動の質の向上を図る。 2 服務事故防止：教職員が教育公務員としての高い使命感・倫理観をもって服務規律を遵守することにより、体罰や不適切な指導、個人情報管理等に係る服務事故防止を徹底する。 3 経営企画室の取組：経営企画室の経営参画を推し進め、各分掌・学年・教科と相互に連携協力しながら、情報の共有化、教育環境の整備及び教育活動の適切な計画化や予算化を図る。 4 ライフ・ワーク・バランスの推進：計画的な業務進行や ICT の積極的な活用、PDCA サイクルの確実な実施等による業務の効率化・削減化・縮減化に取り組み、教職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を図る。	
	今年度の取組目標と具体的方策	関連する数値目標
	① 各分掌・学年・教科は、組織目標の設定、中間報告、年度末総括を行い、課題の把握と具体的な解決策について組織的に検討する。 ② 4 級職会議を定期的に開催し、学校の将来を見据え、学校全体や喫緊の課題等について、分掌の枠を超え協議し課題解決のための原案を作成する。 ③ 上記②において、令和7年度入学生教育課程3か年の教科・科目、特に3つの柱（外国語教育・国際理解科目・課題研究）の中身について継続して協議・提案する。 ④ C4th 等の適切な活用を推進するとともに、業務の効率化を図る。 ⑤ 服務事故防止研修やチェックシート等を活用した取組を通して、服務規律意識の向上を図り、服務事故ゼロを実現する。 ⑥ 経営企画室の経営参画を一層進め、全教職員との連携・対話を重視し、生徒・保護者の視点に立った教育環境の整備、適切な会計処理、入学者選抜の円滑な実施等を図りながら、本校のあらゆる教育活動の円滑化を積極的に推進する。 ⑦ ペーパレス化を促進するとともに、PDCA サイクルを徹底し、全教職員がコスト削減、迅速な課題解決、業務の効率化・平準化・縮減化・削減化に取り組み、超過勤務時間を削減する。	○組織目標の明確化と課題解決への取組 100% ○個別超過勤務時間の削減 ○予算執行率 100% ○「ライフ・ワーク・バランスの実現」50%
		主な推進所管・担当
		全分掌、学年、教科、経営企画室、4 級職会議（または主幹会議）